

いもう 葦毛通信



平成 27 年 9 月 8 日
豊橋市文化財センター
TEL : 0532-56-6060

No. 27

1、2015 モニタリング報告ー5

モウセンゴケ

今年の夏は雨が少なく、葦毛湿原はかなり乾燥していました。それでも、地表面に水の流れが復元されたところを中心に、様々な植物が発芽し成長しています。8月の下旬からは雨も多くなり、シラタマホシクサも順調に開花しています。特に、バックホーでコシダやネザサの根を除去したところでは、開花が進み、植生回復作業の成果が分かりやすくなっています。

G地点

東側の礫層を薄く剥いだG-3地点ではシラタマホシクサがあちこちから発芽し、開花し始めました。特に水が多いところで小さな群落になっています。この部分も、作業前は森だったところです。

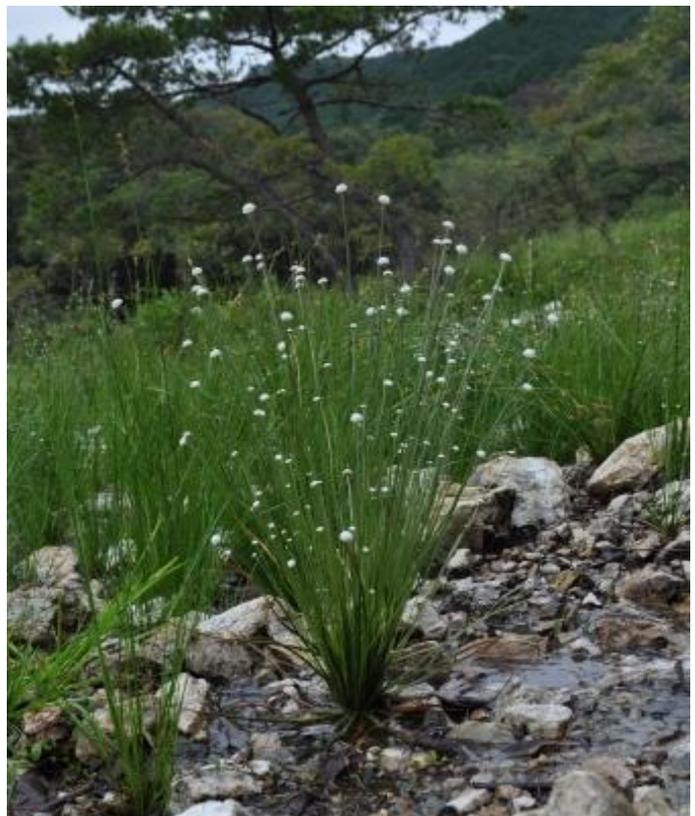
シラタマホシクサは、単独で一株だけが株立ちした状態では、放射状に開いて高さも 50 cm ほどあり、茎も太くなっています。しかし、密生



G-3地点のシラタマホシクサ



密生したシラタマホシクサ (E地点)



株立ちのシラタマホシクサ (G-3地点)

していると茎も細く、高さは20～30 cmで、群落全体が一体になった絨毯のようです。まるで、違う植物のように見えます。栄養状態が良いと大きくなり、貧栄養だと小さくなるという意見もありますが、単独で株立ちした形態のものが密生している群落は無いので、栄養分の差ではなく、他のシラタマホシクサとの競争が無い場合には、大型になるのかもしれない。

南側のG-1地点は作業前には森だったところで、バックホーによりネザサ・コシダの根を除去し、土を東側に播き出したところです。土を播き出した東側は水量が少なく乾燥気味で植物の発芽が少ない状況ですが、地表面に水が現れたところを中心に、ヌマガヤ、イヌノハナヒゲ、アブラガヤ、イグサの仲間等がまばらに発芽しています。写真右側はヌマガヤ群落になっている湿地の中心部ですが、表土を剥いだところと接する部分では、オオイヌノハナヒゲが優勢になっています。葦毛通信23号の写真と比較すると植物の発芽の具合が分かります。

G-2地点は、島状部の木の根を抜根して、土を東側に播き出したところです。葦毛通信22号の写真は、バックホーによる作業前とバックホーでネザサやコシダの根を除去した後のものですが、今回の写真と比較すれば、多くの植物が発芽している様子が分かると思います。ヌマガヤ、イヌノハナヒゲ、ミズギボウシ、イグサの仲間等が発芽しています。また、下流のG-1地点では見られなかったシラタマホシクサがわずかですが復活しています。これも埋土種子からの復活と考えられます。この地点の上流部は森林化してしまっていますが、一の沢と呼ばれているところで、かつては、シラタマホシクサやミカワシオガマ、サワラン等が見られたそうです。

C・G地点では、バックホーによる木の根の抜根作業を行いました。この時抜根した根は現地に山積みになっています。雨に叩かせて根についた土を落とし、土の中の埋土種子をできる限り現地に残すことを目的にしました。抜根した根の量は予想以上に多く、高さ1～1.5m程の山になりました。このような山がC・G地点の林縁部に連なって壁のようになっています。このような根の層が良



G-1地点（北から）



G-2地点（西から）

好な湿地だった裸地の礫層の上に堆積し、マット状になっていたのので、湿地性の植物が発芽できない状態になっていたと考えられます。

木の根の山は雨に叩かれています。思ったほど土は落ちていません。次回バックホーで作業を行う時には、剥ぎ取った根の層をバックホーのバケツで潰して、その場でできる限り土を振り落とす作業も必要なことが分かりました。

L地点

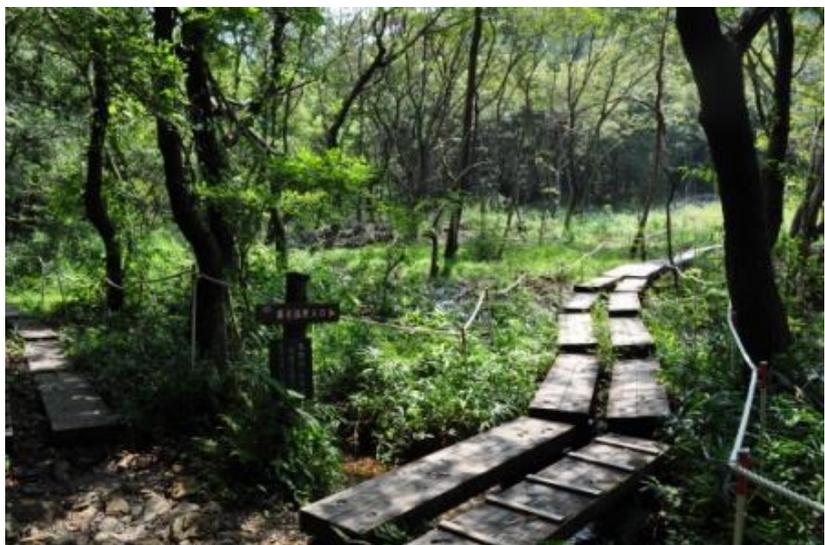
L地点では水の流れに沿ったところや水分が多く地表が湿っているところを中心に多くの植物が発芽しています。葦毛通信 23 号の写真と比較すると植物の発芽の具合が分かります。春にはミカワバイケイソウが 340 株程発芽しましたが、木道沿いではカザグルマが多く発芽し、葦毛湿原では地上絶滅状態だったシラコスゲが数株復活しました。この地点は基盤の礫層の上に腐葉土層が堆積して全体的には乾燥した状態になっています。これからは明るい森の林床部という環境に適した植物が発芽してくるものと思われます。

M地点

M地点では木道沿いのヌマガヤやネザサ群落のところ春にハルリンドウが多く咲きました。ここは林縁部のネザサやコシダのマント群落を除去し、木を伐ったところです。葦毛通信 23 号の写真と比較すると多くの植物が成長してきていることが分かります。画面右からヌマガヤ群落、ネザサ群落、まばらなネザサ群落になっています。ヌマガヤやネザサ群落は本来あった場所に作業前と同じような状態になっていま



林縁部の木の根の山（G地点）



L地点（北から）



M地点（西から）

す。まばらなネザサ群落になっているところは、作業前はコシダ群落だった部分です。他の地点と同じようにコシダがあったところは他の植物の発芽が極端に悪い状態ですが、ここではネザサがまばらに発芽してきました。しかし、他の植物はほとんど発芽してきません。ネザサがまばらに発芽してきたのは、隣接するネザサ群落から根が伸びてきたこと、元々コシダとネザサが混在していた可能性が考えられます。

いずれにしても、この状態では本来あったと推定できる湿地の状態にはなりません。今年度の作業で、一部分でネザサやコシダの根の層を除去する実験区を設定するつもりです。

N地点

N地点では、葦毛通信 19 号で報告したN-3・4地点でミカワシンジュガヤが大量に発芽し、特にN-3地点(写真手前部分)は全体がミカワシンジュガヤの群落になりました。



N-3地点(南から) 8月21日: 攪乱前



N-3地点(南から) 9月4日: 攪乱後

しかし、剥ぎ取った土を積み上げたところをイノシシに攪乱されてしまいました。復活したミカワシンジュガヤの上に播き散らかされてしまったので、ミカワシンジュガヤの一部が埋まってしまいました。イノシシによる攪乱は、N-1地点でも見られ、この他の地点でも近年目立つようになりまし。しかし、現状では有効な対策方法が思い当たりません。今年度は、掘り上げた土はイノシシにより攪乱されることを前提に置き場所を考え直すつもりです。



N-1地点(西から) イノシシの攪乱

葦毛湿原保護意見交換会

9月2日(水)に豊橋市教育委員会が主催する葦毛湿原保護意見交換会が開催されました。葦毛湿原の保護に関しては、国・県・市の保護担当部局や森林管理事務所、植物の専門家、ボランティア団体等が参加して、幅広い意見を交換する場として、豊橋市教育委員会が開催しています。今回が5回目で、年1回開催されています。現在行っている葦毛湿原大規模植生回復作業も、この意見交換会で提言されたものです。

また、豊橋市自然史博物館の学芸員や意見交換会には参加していない植物や昆虫等の専門家にも意見を伺っています。葦毛湿原の大規模植生回復作業は、このように多くの方々の様々な意見を取り入れて進めています。